

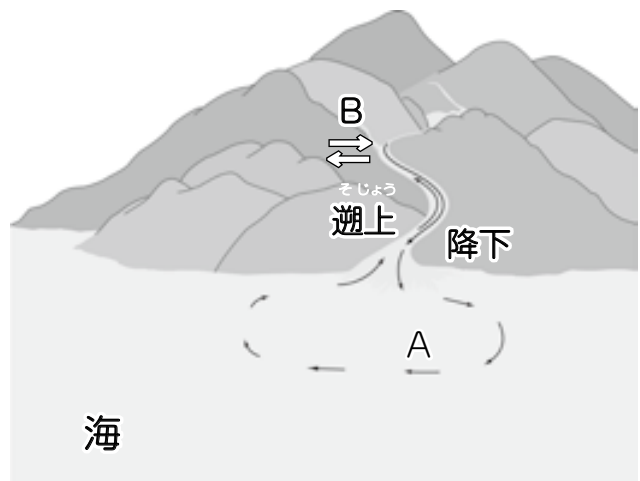
13 島内における動物の移動 河川を移動する動物

魚類や甲殻類こうかく（カニ・エビ）の仲間には、海・川・陸をうまく使い分けているものがあります。ここでは、海から淡水域、さらには陸域へも生活の場を広げたものの、海との関わりを断ち切れなかった動物や、完全に海との関係を断ち切った動物たちの特徴を探ろう。

1. 魚類や甲殻類の島内における移動について、下の問に答えよう。

1) 図中 A のように海と川をまたぐ移動をするものと、B のように移動するものを何と呼ぶか記入しよう。また、それぞれの回遊型かいゆうについて、該当する展示標本の種名をあげよう。

A () 回遊型 (5 種類)



B () 回遊型 (3 種類)

2) 「淡水」で産卵するものと、「海水」で産卵するものでは、卵の大きさはどちらが大ききく、一方、卵数はどちらが多いか記入しよう。

卵が大きい () ・ 卵数が多い ()

3) 魚類や甲殻類の子にとって、海のほうが天敵の多い環境です。餌条件についてはどうか記入しよう。

()

2. 繁殖時期はんしょく以外は比較的内陸部で生活し、繁殖時期だけ海にやってくる動物を3種、展示資料か、パネルの中から選んで記入しよう。

() ・ () ・ () 類)

<二度ともどらない、沖縄のリウキュウアユ>

リウキュウアユは奄美・沖縄諸島の淡水魚です。沖縄島では 1970 年代まで、北部の河川せいそくに生息していました。しかし、復帰後の乱開発のために 1978 年に採集されたのを最後に、沖縄島では絶滅ぜつめつしてしまいました。現在北部にいるリウキュウアユは、奄美大島いんげうから移入されたものの子孫で、真の意味で、沖縄島のリウキュウアユがもどったとはいけません。

